

## 内部評価の結果

## 【評価結果】

計画どおり実施

## 【事業の背景】

工場の果たすべき役割として、市内で発生する一般廃棄物、市外ごみや災害廃棄物の受け入れを行っている。

また、新門司工場の役割として、主に門司区・小倉南区のごみの受け入れ、熔融による埋立処分量の削減やスラグ・メタルの資源化物としての再利用、ごみ発電による再エネ100%電力化への貢献がある。

更に、国の事業支援として、CO2削減率3%以上となる設備については、交付金等の仕組みがあり、国も基幹改良工事を積極的に推進している。

## 【事業の必要性】

(現状と課題)

新門司工場は、平成19年の供用開始から約15年が経過しており、平成28年から長期間の稼働停止を要する設備故障が増加傾向にあることや、処理能力の低下が進行している。

(将来のごみ量推計と処理能力)

基幹改良工事を実施せずに残りの 2 工場体制でごみ処理を行った場合、市内ごみ、他都市ごみや災害ごみの処理ができなくなる。

## 【事業の経済性】

基幹改良工事(延命化)を行った場合と施設を建て替えた場合とのライフサイクルコスト(生涯費用の統計)の比較を行うと、基幹改良工事は建て替えよりも92億円のコスト縮減となるため、基幹改良工事(延命化)の方が優位である。

以上を踏まえ、経年劣化に伴う故障や処理能力低下が進行していること、建て替えよりも延命化して施設を有効活用する方がコスト縮減となることから、基幹改良を実施することを対応方針として決定した。

なお、公共事業調整会議では、工場建て替え時に基幹改良工事を含めた評価をすべき、今後の焼却工場のごみ処理体制について検討することなどの意見があった。

工場建て替え時の基幹改良工事を含めた評価のあり方については、どのような内容が適切か検討していく。

また、今後のごみ処理体制については、安定したごみ処理体制の維持を基本的な考え方としつつ、国の方針やごみの減量化などの社会情勢を注視しながら、検討を行う。